

行政視察報告

視察日時	令和6年10月9日（水）9：30～
視察場所	香川県坂出市
視察項目	地域公共交通について
視 察 者	常任委員会委員8名 同行当局職員1名 事務局職員1名
視察概要	<p>坂出市では、令和5年7月に「地域公共交通利便増進実施計画」を策定し、国の認定を受けることで国庫補助上の優遇措置を受けられるようになった。具体的には、定額運賃の循環バス・デマンド型乗合タクシーと距離運賃の一般路線バスが混在し、利用する交通機関によって運賃が異なる状態であったが、初乗り200円、ゾーンを跨ぐと+100円というシンプルでわかりやすいゾーン運賃を導入し、運賃の統一を行った。また、デジタル田園都市国家構想交付金を活用したキャッシュレス決済「TicketQR」を導入し、市内の公共交通で利用できるようにした。さらに、マイナンバーカードと連携すると100円引きという利用増進策も行っている。さらに、東・中・西の3ルートあった市内循環バスを、中ルートの役割を補完する形で、東・西の2ルートに再編し、また、1時間に1本のパターンダイヤ化を行った。これにより、運行のわかりやすさとコストの削減の両立を図っている。</p> <p>乗合タクシーについては、運行区域を拡大し、便数や運行日を増便する一方で、バスやタクシーの運転手の不足が深刻化するため、一部の路線では国の共創モデル事業を活用し、地域の買物先である地元スーパーを路線バスと乗合タクシーの乗継場所とし、地域の移動手段を確保している。</p>
本市に生かせる視点	<p>循環バスや路線バス、乗合タクシーの運賃を統合することで、料金体系がバラバラだったり、10円単位の端数があり支払いが煩わしかったものが、シンプルでわかりやすい料金設定とすることで、利用増進に繋がっている。さらに、マイナンバーカードとキャッシュレス決済を連携すると割引になるなど、キャッシュレス決済の導入促進を行っており、詳細な乗降データの分析にもつながるため、キャッシュレス決済の利用が半数に留まっている本市においても利用促進策は必要である。</p> <p>循環バスについては、再編により便数は減ったものの、市民のニーズに対応しており、1便あたりの乗客数は増加傾向にある。本市でもニーズの調査とそれに対する再編により、利用者の満足度の向上とコスト削減が両立できるのではないかと考える。また、市民がよく使う地元スーパーを路線バスと乗合タクシーの乗継場所にするすることで、共創を図っているが、本市でも乗合タクシーのエリアが拡大しているため、路線バスとの共創という考え方は参考にしたい。また、坂出市では、PDARU サイクルに取り組んでおり、数値目標の達成・未達成を評価するだけでなく、その原因にも着目し分析を行い、公表することで多様な主体の参加を促し、地域全体で取り組む環境づくりに取り組んでいることは、本市でも参考にしたい。</p>